

平成 27 年 11 月 9 日

各 位

会社名 株式会社ヘリオス
代表者名 代表取締役社長 鍵本 忠尚
(コード：4593、東証マザーズ)
問合せ先 管理領域管掌取締役 松田 良成
(TEL. 03-5777-8308)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 11 月 9 日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 27 年 6 月 16 日に公表した平成 27 年 12 月期（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の業績予想数値の修正（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	73	△1,638	△1,588	△1,591	△42.52
今回修正予想（B）	95	△1,171	△1,063	△1,033	△27.62
増減額（B－A）	22	467	525	556	—
増減率（％）	30.0	—	—	—	—
（参考）前期実績 （平成 26 年 12 月期）	279	△568	△470	△477	△14.33

(注) 1株当たり当期純利益は、平成 27 年 7 月 14 日の第三者割当増資（オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当）による新株式の発行（909,000 株）を反映した数値となっております。

2. 修正の理由

売上高につきましては、海外での眼科手術補助剤 BBG250 の売上に係るロイヤルティ収入が、サブライセンス先における直販化及び販売地域拡大を背景に好調に推移したことから、前回発表予想を上回る見通しです。

利益面では、日本における iPSC 再生医薬品の開発においては当初の想定通り進捗している一方、海外における iPSC 再生医薬品においては自社単独開発から製薬企業等とのアライアンスによる開発に方針を転換したことに伴い、開発や海外展開に係るコストの見直しを行ってまいりました。また、新規シーズ（新薬候補品及びその関連技術・ノウハウ）の獲得においても iPSC 再生医薬品との相乗効果等を勘案し絞り込みを行い、導入コストが減少いたしました。その結果、販売費及び一般管理費が減少し、前回発表予想を上回る見通しです。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在で入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実際の業績は様々な要因によって異なる可能性があります。

以 上